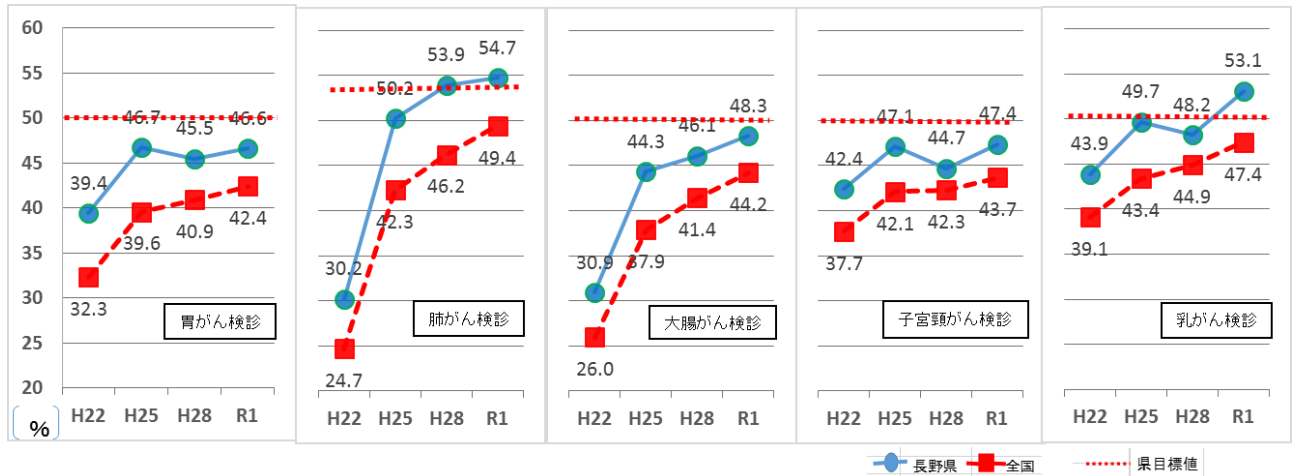


本県におけるがん検診受診率とコロナ禍の影響について

令和4年2月3日

保健・疾病対策課

1 国民生活基礎調査（厚生労働省）におけるがん検診受診率の推移



2 懸念されるコロナ禍の影響

(1) がん検診の中止等による受診機会の喪失

令和2年度・・・4市町村で、いずれかの集団検診を完全中止

令和3年度・・・全市町村で計画通りに検診を実施。

(保健・疾病対策課調べ)

(2) 感染を懸念した受診控え

① がん検診での発見例の減少 (週刊 保健衛生ニュース 2021.12.6号)

〈全がんと登録数の減少が大きいがんの部位別発見経路別登録数 (全国値)〉

	全がん		胃がん		大腸がん		子宮頸がん	
	R 2	4年平均比	R 2	4年平均比	R 2	4年平均比	R 2	4年平均比
検診等	113,442件	-12.1%	14,152件	-24.3%	23,839件	-13.4%	8,401件	-12.1%
検診以外	651,759件	+0.1%	62,604件	-11.0%	96,614件	-1.7%	18,489件	-0.4%

(院内がん登録 特別集計、国立がん研究センター調べ)

上記のほか、肺がん・乳がんについても、令和2年度の登録者数は減少。

検診等での発見数の減少が大きく、発見の遅れが危惧される結果となっている。

② がん診断数・治療数の減少

(院内がん登録数)

(国立がん研究センター・保健・疾病対策課調べ)

	全国	長野県
令和元年度	1,100,415件	17,523件
令和2年度	1,040,379件	16,508件
影響	-5.5% 594施設/863施設で減	-5.8% 13施設/18施設で減

7割強の施設で登録数が減少。(院内がん登録開始以来、全登録数が減少するのは初。)

「がんの患者数そのものが減少したことに起因するものではなく、新型コロナウイルスの影響により、早期がんを中心にがん発見数が減少した可能性が高い」と考察。(厚労省)

以上から、コロナ禍の影響を挽回し、さらにはがん検診受診率を向上させるための取組が必要。